

はじめに

FD と授業改善とは密接に関係しているということで、従来総務・企画担当の副学長の所掌であった FD 委員会が教務・学生指導担当の副学長の所掌に変更されました。それに応じて FD 委員会と教務委員会との合同会議も行われましたが、今後両委員会の更なる強固な関係を構築していきたいと思っています。

平成 19 年度の FD 委員会の活動は、種々の FD 研修会への参加、ほぼ全教科にわたる授業アンケートの実施、授業改善の研修として教授会前での教員による授業工夫の報告会の開催、そして新たに始めた大学院生への授業等に関する聞き取り調査であります。

平成 17 年 9 月の中央教育審議会の答申「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院の構築にむけて—」において、第二章の 2 項（1）大学院評価の確立による質の確保の中の大学院の専門分野別自己点検・評価の促進のなかで

体系的な教育課程：課程の目的等にそった沿った体系的な教育課程の構築

課程の目的等に沿った教育内容・方法（カリキュラム）編成

組織的な教育内容・方法の見直し・改善（FD）

と FD の必要性がうたわれています。これを受けて先ず第一歩として大学院生への聞き取り調査から始めたわけです。ただ今だ、大学院はもとより学部においても十分満足のいく FD 活動はできていません。十分満足のいく FD 活動を行うためには FD 専門の教員が必要、少なくとも FD を継続的に考えていく教員が必要であると FD 委員会は考えるにいたりました。2 年交代の選挙で選ばれた委員以外にも腰を落ち着けて FD に取り組める委員が必要ではないかと考えるにいたりました。その検討が次の FD 委員会の検討課題の一つであります。

FD 委員長 丹後弘司